

## 歴博 くらしの植物苑だより

第114回くらしの植物苑観察会 9月27日(土)

### 初秋の城址公園を歩く

中川 重年(本館研究部客員教授)

暑い盛りに太陽の日差しをさえぎりひんやりした林内の環境を作っていた木々も葉の量が少なくなって週ごとに明るい林になってきています。桜はすでに多くの葉をふるい冬の準備は完了。合歡(ネム)は春遅く葉が出た分がんばって葉を広げています。華やかな秋の赤や黄色のもみじの季節の寸前静かで目立たない季節ではありますが太陽の光を受けて最後の木の実を太らせる、そんな季節です。8月の下旬から9月にかけてウミズザクラやタブノキはすでに大半が鳥に食べられ土の上に落ち、新しい場所に広がろうとしています。自然林を作るタブノキは赤い果肉が鳥によって消化され小指の先ほどの種子からすでに芽を出しております。大きな種子は乾燥に弱い。したがって地面に落ちるとすぐに根を張って冬の乾期を越す準備を始めます。

ミズキの果実は赤黒、桃色、クリームとさまざまな色になります。これも鳥の好む樹種です。林のふちに落ちたミズキの種子はそこでよく育ち、林の中を守るよう葉を広げます。ミズキは根が浅く、だんだんと林の外に傾いてゆきます。斜面に生える場合その傾向はいっそうはっきりしております。さあ今日は台地から斜面を下ります。途中傾いた木々を見ながらさまざまな樹木の生きるすべを観察しましょう。

---

#### 次回予告

第115回くらしの植物苑観察会 2008年10月25日(土)

「衣服と植物」 澤田 和人(本館研究部)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料

